

「アクティブラーニング型授業」 9割以上の高校で実施 組織的な取り組みが約4割

—高校の進路指導・キャリア教育に関する調査2016 高大接続編—

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（本社：東京都中央区 代表取締役社長：山口 文洋）が運営する、リクルート進学総研（所長：小林 浩）では、高校の進路指導・キャリア教育の現状を明らかにするため、全国の全日制高校の進路指導主事に対して進路指導の困難度、キャリア教育の進捗状況等についての調査を実施いたしました。調査結果がまとまりましたので、一部を抜粋してご報告申し上げます。

参考資料：<https://prtimes.jp/a/?f=d10032-20170206-8301.pdf>

アクティブラーニング型授業の実施状況

■ 9割以上の高校が、アクティブラーニングの視点による授業を実施。 組織的な取り組みが約4割。→参考資料 P3~4

- ・アクティブラーニングの視点による授業を実施している高校は全体の92.9%。
- ・取り組みの主体者別にみると、学校全体や教科で組織的に取り組んでいる学校が41.7%。

※参考 前回調査（2014年）と比較すると、
アクティブラーニング型授業の実施率は約2倍に増加（2014年47.1%→2016年92.9%）。
学校全体・教科で取り組んでいるケースも約2倍に増加（2014年20.7%→2016年41.7%）。
（アクティブラーニングの概念の変化に伴い、設問文を変更しているため参考値）

高大接続議論に対応した取り組み

■ 32.4%の高校が、高大接続議論を踏まえた取り組みを実施。→参考資料 P5~6

- ・高大接続議論を踏まえた取り組みを実施している高校は全体の32.4%。
「今後取り組む予定がある」（45.6%）が、実施を上回った。

■ 対応を進めるうえでのハードルのトップは 「大学入学希望者学力評価テスト（仮）の内容がまだ具体的ではないので 対策が取れない」（51.2%）。→参考資料 P7

グローバル社会への対応

■ 34.4%の高校が、グローバル社会を意識した教育の取り組みを実施。 前回調査（2014年）より10.2ポイントの上昇。→参考資料 P8

※出版・印刷物へデータを転載する際には、「高校の進路指導・キャリア教育に関する調査2016」リクルート進学総研調べと明記ください。

【本件に関するお問い合わせ先】

https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/
【リクルート進学総研 WEBサイト】 <http://souken.shingakunet.com/>